



CONTENTS

「web NESTが10歳になりました」.....	01
「ケアから始めるカラダとココロの性教育 ～HIV／STIの新時代的アプローチ～」.....	02
「第5回FITチャリティ・ラン」助成先団体に決定！ ...	03
第23回日本エイズ学会学術集会 参加感想文.....	04
「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」成果発表会	07
部門報告（2009年10～12月）.....	08

web NEST が10歳になりました

<http://web-nest.ptokyo.com/>

ぷれいす東京／web NEST 運営委員 原田 玲子

HIV陽性者とパートナー・家族・友人のためのサイト web NEST ができて10年、ここまでする間には、山あり谷あり、いろんなことがありました。時間をかけて運営委員会を立て直したこともあります。私自身、やめたいと思ったこともあります。でも、「告知直後に情報を探して、web NEST をすみからすみまで見た」、「アンサーを読んで自分だけじゃないと思った」という声をきくと、いやなことはみんなふっとび、これからがんばろう！という気持ちになりました。そして、いつも誰かいっしょにやってくれる人がいた、ひとりではなかったということもとても大きかったと思います。

サイトの話が持ち上がったのは、私がネスト・スタッフとなって1年たった頃です。これからはインターネットの時代、ネストにこられない人もいるから、陽性者のためのサイトがあるといいねと、ネスト利用者（女性1名、男性2名）と一緒に立ち上げました。1999年12月1日に「NEST W3」としてスタート、2001年に名称を「web NEST」と変更、2005年リニューアル、2009年7月携帯サイト「mobile NEST」開設、同年12月1日でまる10年になりました。はじめたときは小さなサイトでしたが、多くの人たちの参加・協力のおかげで、今では230ページ以上の充実したサイトになりました。

web NEST は、陽性者の有志が中心となって、ネストにかかわるスタッフといっしょに運営委員会を持ち、主体的に企画・運営されています。現在の運営委員は6名、私の役割は、議題の作成、連絡調整など、運営が円滑に進むようにすることと、サイトの更新作業です。サイトの編集は初めてでしたが、やってみたら面白くて、夢中になりました。今も楽しんで作業をしていることが、個人的に長続きしている理由の一つかもしれません。

運営の中心は、月に1回開かれるミーティング、web NEST運営委員会です。顔をあわせて、コミュニケーションをしっかりとることを大事にしてきました。意見がぶつかったときも、お互いの考えを理解し、web NESTとしてはどうするかを決めてきました。話し合うことがた

くさんあったり、議論が白熱したりして、終電に遅れそうになったこともあります。10年間、毎月毎月話し合いを積み重ねて、今のweb NEST になりました。

話し合いのなかで、サイトづくりで大切にしたいこともはっきりしてきました。一つは、匿名情報が行き交うウェブ空間で、信頼してもらえるサイトにすることです。そのために、情報を更新し、更新日を明記したり、運営委員のプロフィールと「編集後記」を公開して、どんな人たちが運営しているかわかるようにしたりと工夫しています。

もう一つは多様性です。たとえば、「みんなの日記帳」では9名の陽性者がそれぞれの日常をつづっていますが、個性はもちろん、年齢・性別・居住地域・セクシュアリティなどもいろいろです。女性の陽性者やパートナーなど、情報が少ないと思われる人たちのことも意識して取り上げています。

三つ目は双方向性です。運営側が一方的に情報を提供するのではなく、多くの人が参加、協力して経験を共有できる場をつくってきました。たとえば、「よくある質問集」では、46の質問に対して延べ約500人の陽性者やその周囲の人がアンサーを書き、それを読んで、自分なりの答えを探るときの参考にもらえるようにしています。「リンク集」でも、陽性者やパートナーが経験を語っているサイトを50以上掲載しています。

web NEST をやってきて、なにか役に立ちたいと思っている陽性者や周囲の人がたくさんいることを知りました。こうした人たちの思いに支えられて、web NEST があるといってもいいかもしれません。web NEST をみた人たちが、ほかの陽性者の経験や情報にふれ、自分らしく生きていくときの参考にもらえるようにしたいと思います。これまでさまざまな形でweb NEST に関わってきた人たちも運営委員の人たちもきっと同じ気持ちだと思います。これからも「あってよかった」と思っていたらいいサイトづくりをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

「ケアから始めるカラダとココロの性教育～HIV／STIの新時代的アプローチ～」

2009年度の性教育セミナー（主催：日本性教育協会／企画・運営ぶれいす東京）が、11月3日（火・祝）、8日（日）、15日（日）の3日間、東京にて開催されました。多彩なバックグラウンドをもった参加者が参加・修了、充実のセミナーとなりました。

11月に行われた日本性教育協会（JASE）主催のセミナーは、各分野で性教育に携わっている方を対象に、性教育を「ケア」の視点から捉え直し、性教育について多角的に楽しく考えよう！ ついでに、参加者だけでなくぶれいす東京スタッフもエンパワーされちゃおう！ と、よくばりな女性スタッフのみで企画した盛り沢山の内容となった。

今回、PEPオトナの女性部門メンバー3人も企画・運営に参加させてもらった。私たちオトナの女性部門は、通常20代から30代の女性対象にセミナーなどを開催しているが、今回のセミナー対象者は年齢性別不問の性教育実践者。しかも3週連続講座。今までの活動とは違った発見や出会いがあるはずと、当日をとっても楽しみにしていた。

セミナーでは、学校の先生や助産師さんだけでなく、性教育や性の問題に興味がある方や漫画家さんなど、さまざまなバックグラウンドを持つ方たちが参加してくれた。

初日はやや緊張していた面持ちの参加者（もちろんファシリテーターをしていた私たちも）だったが、2回目、3回目と回数を重ねるごとに雰囲気も和やかになり、グループワークの話し合いがはずみ、濃密になっていった。個人的な悩みを話す参加者を他の参加者が受け止めたり、同じような経験談をシェアしたりと、まさにエンパワーされる場になっていったと思う。

自分の性の健康を考えて、自分の性を大切に。自分のケアをする。サポートをしていくためには、ケアする側も、今までの思い込みや先入観に気づいていかなければいけないし、そして何よりも、もっと仲間とつながって、お互い元気になりたい。閉館時間が迫っても話が弾んでなかなか帰ろうとしない参加者たちの姿を見て、づくづくそう実感した。

（報告：オトナの女性部門：みず&いみ）



グループごとの話し合い

「研修会でケアされました」 大阪府立大学 井端 美奈子

研修に参加して、自分の思い込みや先入観がゆさぶられ、セクシュアリティ観が少しやわらかくなり、ひろがったような気がする。「いのち」「性」「セックス」「ケア」など、当たり前に使っていることばの意味をあらためて問いなおし、他者が書いた手記を音読し、感想を語り合い、若い感性が作った啓発用DVDを視聴し、たくさんのヒントを得た。

従来の性教育では、「なんだか居心地の悪い感じだった」、

●セミナーのスケジュール

開催日	11月3日	11月8日	11月15日
テーマ	「性は生」を問い直す	性感染・HIV予防の新たなアプローチ	ケアとしての性教育を考える
午前	いのちってなんだろう～いのちは受精で始まるでいいのかな？ 池上千寿子（ぶれいす東京代表）	不特定多数はホントにキケン？～Web調査にみる特定神話と女性の性的健康 野坂祐子（大阪教育大学准教授）	自分のくからだをケアする 中村美亜（お茶の水女子大学 講師）
	性ってなんだろう～属性としての性の諸相 砂川秀樹（エイズ予防財団流動研究員）	感染経路と関係性：ウイルスからみた新しい教え方 池上千寿子	他者と関わるためのコミュニケーション 5つのルール 池上千寿子
ランチ＆交流会			
午後	ケアってなんだろう 宇田川和泉（ぶれいす東京PEP）	セックスのリスクアセスメント 勝又里織（静岡県立大学看護学部講師）	セックスって何すること？ 中村美亜
	トーク＆エクセサイズ		
	Living Together 大槻知子（エイズ予防財団リサーチレジデント）	Sexual Health 和田水穂（ぶれいす東京PEP）	Life 大槻知子

「さらに悩みが深くなった」、「傷ついた」、「疎外感を感じた」、などの感想を聞くことが多い。今後は、性教育のなかにケアの視点を多く取り入れて、安心や救いや希望につながるようなメッセージを送りたい。講師やスタッフの方々のパワーも大きかったが、参加者が皆、真剣でユニーク！3回参加を重ねて徐々に自然に話ができて、最終日には参加者全員がよい表情になり、大切な存在としていとおしく感じられた。研修の場でケアを受けて、パワーアップしたことを実感した。

「ゴムなし特定少数より、ゴムあり不特定多数??」

三和出版株式会社 編集長 樺 昭子

私は男性向けアダルト誌の編集長をしております。常に性に関わる現場におり、また個人的に性教育関連書籍収集の趣味もあることから、こちらの研修会に参加いたしました。最も興味深かったのは「不特定多数との性交渉は本当に危険なのか？」というお話でした。常日頃「私は彼一筋だからコンドームなしでも大丈夫！」と言いつつ、なぜかその運命の恋人が3ヶ月ごとに変わっている女の子よりも「仕事で大勢の男優さんとHするけど必ずコンドーム装着！」というAV女優さんの方がずっとHIV感染の確率は低いよなあ……と思っていたのですが、その点が良

く分かって大満足です。ただひとつ残念だったのは資料としてワークで使用した小冊子です。HIVキャリアの方々の肉声は心に迫るものでしたが、横に掲載されていた写真がいただけません。すべてイメージ写真とのことですが、なぜ「普通のOL・会社員風」の方が一人もいらっしゃらないのでしょうか？ 掲載女性の大半が「金髪・スッピン・古着系」はナイでしょう。正直、私は「こういう特殊な主張をしていない『普通の』OL & 会社員なら安心」というメッセージを勝手に受け取っちゃいました。もし、よろしければこんな意見にも耳を傾けていただければ幸いです。

「豊作！」

るっきー

「性」って何？ そう考えながら3日間がスタート。曖昧で、多様で、不可視。それなのにちゃんとある。そんな正体不明の性をどうケアする？

「性」って何？ 3日間を経て、更に疑問。当然か、性だもん。たった3日で分かるはずない。でも収穫はあった。生

や愛、当たり前に使っていた尊い言葉の曖昧さ、不特定多数の危険神話、ウイルスからみた性教育……。挙げれば限がない衝撃の数々！ 正しい知識や考え方を得る、これは性に対する「ケア」の一つでは！？

「性」について、深く考えている人達との出会い。これも重要な収穫。性って、日常の中で、みんなでオープンに考える機会が少ない。様々な立場で性に関わる人達のおかげで、新しい視点をたくさん経験することができた。同時に、自分の性を深く見つめることができた。共に深く考え感じる、これも性に対する「ケア」の一つ！？ 時が経つにつれて気付く。3日間で得たものは意外な程多い！ ああ～おもしろかった。もう1回いきたいなあ。



セックスのリスクアセスメントワーク

「第5回FITチャリティ・ラン」助成先団体に決定！

FITチャリティ・ランの理念に沿った地域活動を行っている在京の民間非営利団体として、その助成先の一つにぶれいす東京が選ばれました。年々増加する活動へのニーズに対応するため、活動環境の整備や人材育成、資材の開発などに充てられる予定です。

「『第5回FITチャリティ・ラン』に参加して」

大槻 知子

「FITチャリティ・ラン (Financial Industry in Tokyo For Charity Run)」という、在京の金融関連企業の社員やその家族たちが社会貢献のために一丸となり、2005年より毎秋に開催しているチャリティ・イベントがあります。



おそろいTシャツで2キロウォーク

社会的に意義がある活動をしながらあまり認知されていない複数の民間団体へイベントの収益を寄付して資金的援助を行うかたち、また同時にイベントでマラソンやウォークに参加する人たちに地域に根ざした民間活動について知り、支援する機会を提供するというかたちで、金融業界に勤める人たちが各社の垣根を越えて実行委員会を組織し、運営しているイベントです。

今回ご縁があり、イベントの実行委員会にぶれいす東京の長年のCBO活動の意義が認められ、11月29日(日)に国立競技場で開催された「第5回FITチャリティ・ラン」による助成先のひとつに選ばれました。

今まであまりつながりがなかった分野の人たちに対して広く活動を紹介させてもらう機会を得て、金融関連企業の社員やその家族や友人の方々と一緒に、ぶれいす東京のスタッフもウォーク参加者として、爽やかな秋晴れの陽射しに銀杏の葉が輝く明治神宮外苑を歩いてきました。イベント全体で97団体から5,183人が参加し、実に5,944万円の募金があったとのこと。そして、実行委員

会はその収益の90%以上を助成先の各団体への寄付にあてるそうです。イベントの前後を通じて実行委員会の方々との交流の機会をいただきましたが、金融業界が逆風にさらされている中、毎日の業務に加えてボランティアでこれだけのイベントを運営する情熱とエネルギーに敬服するばかりです。

最後に、助成申請の段階から熱心に相談にのってくれたUBS証券のパンさんと堀さん、メリルリンチ日本証券のケンディさん、ピアフレンズの石川さん、そしてさまざまなかたちでご支援くださったFIT関係者の皆様にあらためてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。ぶれいす東京の活動の維持拡充などのために役立てさせていただきます。

「FITチャリティ・ラン」について、くわしくはWebサイトをご覧ください。

<http://www.fitforcharity.org/ja/>



こんなに大勢の人たちが国立競技場に！



ぶれいす東京のブースにて

第23回日本エイズ学会学術集会 参加感想文

「続く、歩み」

福原 寿弥

第23回日本エイズ学会学術集会・総会が、11月26日(木)から28日(土)までの3日間、「HIV/AIDS：その予防とケアへの協働ーパートナーシップ、ネットワーク、コミュニティ」をテーマに、名古屋国際会議場で開催されました。会長はこの誌面や、ぶれいすも関わる研究班でおなじみの名古屋市立大学、市川誠一先生。3日間、この上ない小春日和で、コートのないエイズ学会は初めてでした。

毎年更新される「治療のガイドライン」をはじめ、今回は新薬の報告が目につきました。既存の3種類の抗HIV薬のグループの中で、耐性パターンの違った薬がでてきたり、新たに全く違った部分に作用する第4の薬が使われてきたりと、治療薬の進歩はさらに続いているようです。ただ、我々が生島が座長を務めたシンポ「HIVは本当に慢性になったのか？ー長期療養時代の陽性者支援の課題ー」では、“飲めてさえいれば治療は概ね成功する”時代になってきたとはいえ、生活の中の困難さ、先の読めなさは依然続いていて、単純にはいかない！との意見が多く聞かれました。新薬がでてガイドラインが変わること自体、それが特効薬でない限り、陽性者にとっては“治療環境の変化”であり、そのたびに一喜一憂しなければならないわけですから。

日本エイズ学会アルトマーク賞。今年はなんと我々が池上千寿子代表が受賞の栄誉に輝きました！受賞講演では、ハワイにおけるHIV支援地域活動の取り組みに始まり、我が国における歩みについて、学会テーマにもある“協働”をキーワードに話されました。確実に、その場にいたHIV/AIDSから影響を受けている様々な立場の人達の心に届く、勇気をもらえるお話でした。感謝&感動！

珍しいサテライトがあって、スピリチュアル・ケアについてでした。ガンの緩和ケアで触れられることのある話題でしょうが、HAART時代のHIVにおいても、その人の存在を揺るがす大きな衝撃であるという点において、変わりはないのでしょう。最後にひと言、“目の前に苦しむ人がいたら、深く聴聞して、絆が尊厳をはぐくむ”とのことでした。わからないなりに、日頃の自分を省みしました。



会場風景



アルトマーク
賞記念講演を
する池上代表

「池上千寿子さんの『アルトマーク受賞講演』を聞いて」

ブブ・ド・ラ・マドレーヌ

(コミュニティスペースdista支援部コーディネーター)

私が初めて池上さんにお会いしたのは、1994年横浜国際エイズ会議でのこと。以来、ぶれいす東京での活動を始め、なぜ池上さんはいつもあのように強く爽やかに活動が続けていらっしゃるのか、ある種のナゾでした。今回の講演をお聞きして、そのナゾが少し解けた気がします。それは、池上さんには、ミルトン・ダイヤモンドさんという『師匠』と、最初から協働してエイズ対策を行ったハワイでの実践というモデルに基づく盤石な『理念』があったということです。講演最後の「環境問題としてのHIV」というアイデアは、今も鮮やかに心に残っています。

1999年、「SWASH (Sex Work and Sexual Health)」の「産婆役」を引き受けて下さったのも池上さんでした。当時、セックスワーカー自身が自分と客の性的健康について考えて行動するという点について、情熱はあるが右も左もわからない私たちが、無事だけでなく祝福されていることを感じてこの世に生まれて来ることができたのは、池上さんのおかげだと、感謝しています。

その他にも感謝したいことはたくさんあります。今回池上さんが受賞されたことは、エイズ対策や性教育に関わる大勢の人達へのエンパワメントです。おめでとうございます！

「名古屋で見つけたMSM対策、その希望の種」

おーた

名古屋行きの深夜バスに乗り込みながら、僕はふと普段の活動を思っていた。電話相談でクライアントと向き合い発した言葉は相手に届いているのだろうか。そんな事を考えながらも、ひつまぶしやら手羽先に思いを馳せている内にバスは夜明けと共に名古屋に到着した。

受付を済ませ、興味の赴くまま演題などを聞いて回った。その中で印象に残ったのは、MSMの旅先での性的活動についての報告や、ハッテン場でのコンドーム「不使用」理由のインタビュー調査といった言わば日本のMSMに対する、具体的に新たな予防啓発を探る動きの研究が目立った事だった。

これまで NPO等により提供されてきた啓発が効果を上げている事は疑いようもない。だが、それでも国内の MSM の感染拡大が続いている事実は、そうした従来の手法が届かない場面や人がいると想像がつく。その「届かなかった」所へのアプローチが模索され続けていると言う事は、明るいニュースの多くない予防啓発の次なる希望だろう。そして、その分野の末席にいる僕にとっても、何かを「届ける」手伝いが出来るはずだと改めて思った3日間だった。

「学会発表バージン喪失?!」

ヤマコ

最近の土曜夜の Gフレ電話相談で、地方からの相談や性的指向の相談が増えていたり、陽性者からの複雑・多岐にわたる相談が寄せられていたり・・・何かできないかと相談員同士で話していたら、「じゃGフレから発表、ヤマコさんよろしく」と言われ即決してしまったのである。それでスライド作って会場へ！

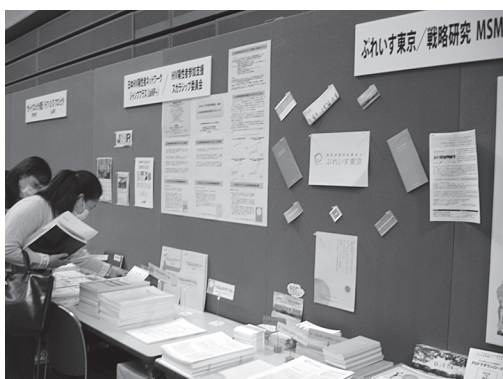
学会というからもっとお堅い雰囲気なのかと思いきや、学生っぽい人、一目でゲイと分かるお友達といらしている方々、普通にその辺の道を歩いていそうなおばさま方、もちろんスーツで決めている人も。この集まりはいったい何状態?! おまけにゲイ心をくすぐる、素敵でバブリーな会場！

そうこうしてるうちに、MSM の発表開始。初めてだから失敗しても OK、と自分に言い聞かせるが、名前呼ばれて壇上に立って話した7分間、ほとんど記憶がない。覚えているのは、発表で使うつもりで、ローション、サムソン (ゲイ雑誌)、男街マップ (全国ゲイパーマップ) を手に抱えていたことと、思いっきり「この会場は暗くてハッテン場状態ですが…」と話してしまったこと (スライドが見やすいように会場が暗くなるのです)。

終わってから、「ヤマコ、Gフレだからもっとゲイゲイしく話さないよぉ～」と会場で聞いていた他の相談員から最後のダメだし。次の発表の時にはそうしなきゃ! ?

最終日も時間の許す限り、発表を聞いた。ホットライン部門からも陽性者支援の枠で発表となっていた。事前にスライドやリハーサルを見ているので、内容盛りだくさんで本番までにまとまるのか気に掛かっていたが、みごとわかりやすく時間内に発表を収めていた。

学術学会というと堅苦しいが、無料で聞けるセッションや HIV に関連したブースなどもあり、雑多な雰囲気が居心地いいですよ。まだ未体験の方は次回ぜひどうぞ！



スカラシップ委員会、ふれいす東京、戦略研究などのブース

「HIV陽性当事者により開かれた学会へ」

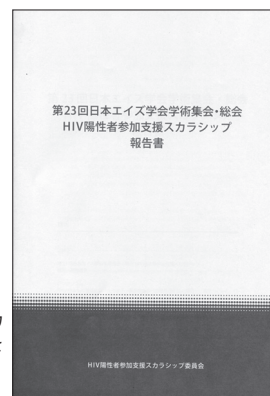
スカラシップ委員会 大槻 知子

HIV陽性者の学会参加を促進するため、ふれいす東京が2006年の第20回学会よりはばたき福祉事業団、ジャンププラスらとの協働で運営してきた「HIV陽性者参加支援スカラシップ」(学会参加登録費と宿泊費・交通費の一部助成)を通じて、本学会に55名の陽性者の方が参加しました。

年々スカラシップ応募者数が増える中、資金集めの方は頭打ちにありましたが、今回ははじめて学会長である市川誠一先生よりご賛助をいただきスカラシップ受給者向けに参加登録証を無償で付与されたほか、学会会場内にブース出展のためのスペースをいただき、より多くの来場者へ向けてスカラシップ委員会の取り組みを紹介する機会を得ました。そして、委員会による協働シンポジウム「HIVは本当に慢性になったのか? -長期療養時代の陽性者支援の課題-」では、ACCの瀧永氏、東京都福祉保健局の大井氏、LIFE東海のシンヤ氏、ジャンププラスの長谷川氏、大阪医療センターの岡本氏、はばたき福祉事業団の大平氏、ふれいす東京の生島が登壇し、HIVが慢性疾患として語られること、その意味や投げかけられる課題について多彩な切り口から活発な討議がなされています。

4年目のスカラシップ運営を終え振り返ってみると、スカラシップがなければ学会に興味を持つこともなかったと当初話していた陽性者の方が、フロアから積極的に質問等をしていたり、中には演者として発表したりする方も出てきています。運営側も一緒にプログラムを育て、これからも当事者と学会との橋渡しや、交流のきっかけづくりを続けていかなければと強く思う次第です。

学会に参加したスカラシップ受給者の、各演題や発表内容に対する視点や意見等が載った報告書を委員会にて配布していますので、そちらもぜひご覧ください。



「HIV陽性者参加支援スカラシップ報告書」PDF版をダウンロードしてご覧頂くこともできます。

<http://www.janppplus.jp/project/scholarship/report23.pdf>

「デビュー! ?」

LIFE東海 シンヤ

今回、2回目のエイズ学会参加。前回は、スカラシップの要件をこなすため、報告書を作成しなくてはと、演者のお話を一生懸命聞いていました。それが、今年はなんと、この私がマイクの前に立って、演者になっているではありませんか! ?

ふれいす東京の生島さんから、学会へのお誘いを受けたのが、我々LIFE東海の設定準備から1年が経とうとした2009年夏前の事です。学会開催地である名古屋から、

地元団体として是非参加してみないかと言われ、私達を知ってもらうには良い機会だと思い、その気になって出演する事にしました。

原稿は、ほとんど一夜漬けで作成して演台に立ちました。落ち着いていたはずでしたが、いざ名前を呼ばれ、正面スクリーンに PowerPoint が映し出されたとたん、頭の中が真っ白になり、気付いた時には控えの椅子に座り、首筋と脇の下にびしょりと汗をかいていました。そうです、記憶がすっ飛んでしまったのです。

講演を無事終わることができ、色々な人から LIFE 東海に対して、励ましのお言葉をいただきました。私達も順調に団体としての骨組みができ、そのような時に華やかなデビューをさせていただき、感謝しております。ありがとうございました。

私達のホームページも開設しましたので、よろしくお願いします。詳しくは WEB で…
<http://www.life-tokai.com>



シンポジウム「HIVは本当に慢性になったのか？」

「第23回エイズ学会に参加して

～エイズはいつか本当に慢性疾患になるのか？～

東京都福祉保健局感染症対策課長 大井 洋

今回、エイズ医療に関わる現状を主題としたシンポジウムに行政の立場から参加させていただきましたが、本学会に参加するたびに驚かされるのは、医療関係者をはじめとして HIV 感染症に関連した問題に関わる方々の、熱い思いと前へ向かう力強い歩みです。

HIV 感染症に対する化学療法等が日進月歩の進歩を続ける一方で、療養期間が長期に及ぶことによる新たな課題が認識されるようになっており、HIV 感染者の方々ができる限り支障なく社会生活と療養生活を両立することが出来る環境づくりが求められていることを再認識しました。

医療だけを考えても、感染者の増加に比較して、積極的に HIV 診療に取り組む医療機関の参加は鈍く、東京においてさえ、感染者の社会生活の多様化に HIV 診療のあり方が追いつけていない実情があります。こうした問題に起因する負担は、主として感染者の方々に背負わされているのが実情で、解決に向けた行政の役割として、これまで以上に HIV 感染者の声に耳を傾け課題の実態把握に努め、有効な施策につなげていく必要性を改めて感じました。

「展示会場とラウンジセッション」

しおのさとし (大学院生)

2009 年のエイズ学会の展示会場はいつもの学会にはないものだった。学会に訪れた 1700 人の誰もが一度は

足を運び、そして寛ぐことのできた空間だった。特筆すべきことはたくさんあるが、以下の 3 点があげられる。

まずは、ラウンジセッションでの講演。研究者、医療関係者、NGO、当事者が集まる会場内の一部スペースでは、セックスワーカーや滞日外国人のエイズに関する講演が催された。いつもの学会なら参加する人は決まっているが、これらの講演には他にも大勢の参加者がいた。エイズ対策のドン(?)の顔ぶれもあり、講演では活発な意見交換が行われていた。

そして、展示会場には企業のブースと肩をならべ、中心となって NGO がブース参加していた。北海道から沖縄までの団体が、さらに予防から支援の団体まで参加していた。こんな機会はめったにないのではないかと思う。研究者も医療関係者も NGO 同士でさえ、思い思いにエイズ学会を過ごし、会場でネットワークの広がる光景を目の当たりすることができた。ただドラッグユーザーへの支援団体の参加がなかったことは残念だったと思う。

最後に、この展示会場を安全に、また快適に過ごせるように運営していたのは無償のボランティアだったということ。3 日間で総勢 120 名になる。彼らは普段は各地域でエイズに関わる活動をしている人々だった。2009 年のエイズ学会のボランティアも発表者と同じエイズの最前線に関わる人々なのである。各地域からこの学会のために集まった人々が力を合わせて運営している姿はとても素晴らしいと思った。

この 2009 年のエイズ学会の展示会場は、まさにそのテーマに沿ったネットワークとパートナーシップを示し、これからのエイズに関わる問題を解決の方向へ動かすための底力とは何なのかを感じさせるものだったと思う。



ラウンジスペースの様子



学会長の市川誠一氏とドラッグクイーン



会場の名古屋国際会議場

「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」成果発表会

11月26日、第23回日本エイズ学会学術集会の初日に、サテライトシンポジウムとして、名古屋国際会議場で134名が参加して行われました。

本シンポジウムでは、全国33カ所のエイズ診療ブロック拠点病院、エイズ診療中核拠点病院、ACCなどで働く医療従事者の協力により実施した「生活と社会参加に関する調査」により集票した調査結果の概要を紹介した。これだけ広範囲にわたる医療機関の協力を得て、HIV陽性者1,203人の参加を得ることができたデータは大変に貴重だ。エイズ学会での発表は、調査協力者、調査参加者、地元行政への調査結果の報告の場とした。

また、集められたデータを解釈するために専門家をゲストに招いた。産業医・公衆衛生の立場から、鎌倉光宏（慶應義塾大学大学院）さん。ソーシャルワーカーの立場から、岡本学（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター）さん。看護師の立場から、村上未知子（JANAC HIV/AIDS看護学会）さんというゲストをお迎えして開催された。

参加者は、134人で、HIV陽性者、医療従事者、行政関係者、NGO関係者など多様な方々の参加が得られた。

（報告：生島）

※本シンポジウムは、主催：財団法人エイズ予防財団、平成21年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」の研究成果等普及啓発事業として実施された。

「シンポジウム『HIV／エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会』に参加をして」

あらいぐま

私はスタッフとして、そして陽性者の一人として、このシンポジウムに参加させていただいた。スタッフとしては、冊子をまとめる作業の一部とシンポジウム当日のお手伝いをさせていただいた。貴重なデータばかりの冊子の編集作業では、ミスがないこと、そしてコメントは客観的であることを心がけた。回答者が1200人以上のデータはかなりの説得力があり、これらのデータで多くの人たちが陽性者の実態をイメージしていくことと思う。仮に8割の人がAという回答をしたなら「陽性者はたいがいAである」と認識するであろう。身勝手だと思うが、私自身の回答がAならよいが、そうでなければ「Bという人もいるんだ！」と主張したくなる。ひとくくりに固定したイメージをもたれることに危険を感じることもある。少数意見も無視しないでほしい。冊子には、多くの自由記述があるので、ぜひそれらを読んで、数字の背景にあるものを確認し、そして少数意見にも耳を傾けてほしいと思う。

シンポジウムの当日は、私を含め、アンケートに回答し



冊子「HIV／エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会」

た陽性者も多数参加していたはずである。私の知人の陽性者も多数いたし、私が通う病院のスタッフも参加してくれていた。たくさんの方々に参加していただいたことに、スタッフとしてとてもうれしく思っている。時間の都合で、私たち陽性者が発言する機会がなかったのが残念であったが、私を含めて多くの陽性者が、自分の声を聞いてほしいという熱い思いがあるに違いない。データでひとくくりにされたくない、私はこうなんだ、ということを。私たちの実態を正しく知ってもらう為に、陽性者の一人として、今後でもできることをしていきたいと思う。

「看護師として陽性者の社会生活とQOLにどう関われるか」

東京大学医科学研究所附属病院 看護相談室
直井 寿子

看護師として陽性者の社会生活とQOLにどう関われるか—この課題を持って、今回のシンポジウムに参加した。私はコーディネーターとして病院勤務をしている。その



成果発表会の会場風景

の際、患者様から就労に関する相談を受けることが多い。それは、裏を返せばそれだけ陽性者にとって就労すること・就労を継続することに大きな障壁があるのだろう。

今回のシンポジウムに参加して、現状を知ること、生の声に耳を傾けることが陽性者の社会生活とQOLに関わる第一歩だと感じた。現実には直面している問題や、うまく就労を続けるための工夫などは、陽性者から学ばなければならない。また、とても印象に残ったことは、「HIVだけど〇〇できる」というアプローチをしようということ。看護師として、陽性者が健康な面に目を向けられるような関わりをしていくことの必要性も感じた。

日本の社会環境におけるエイズ対策は、もっと整備されなければならない。しかし、それでも陽性者は十分に整備されていない社会の中で生活していかなければならない。その中で感じる不便や苦痛を少しでも解消し、足りないものを少しでも補っていけるようサポートすることを、我々の役割の中に組み込んでいきたい。



コメントーターの3名（左から、村上、岡本、鎌倉各氏）

部門報告 (2009年10～12月)



ホットライン

エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	10月	11月	12月
日 数(日)	4	5	4
総 時 間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ人)	5.5	6	4.5
相談件数(件)	35	43	28
うち(男性)	29	38	23
(女性)	6	5	5
陽性者相談	0	1	0
要確認相談	1	0	0
1日平均(件)	8.8	8.6	7.0

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	10月	11月	12月
日 数(日)	14	13	12
総 時 間(時間)	42	39	36
相談員数(延べ人)	33.5	28	25.5
相談件数(件)	198	202	191
うち(男性)	172	171	165
(女性)	26	31	25
(不明)	0	0	1
陽性者相談	1	0	4
要確認相談	1	0	1
1日平均(件)	14.1	15.5	15.9

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

10月	3日	HL部門オリエンテーション(9名) フォローミーティング(7名) 新人研修打合せ(2名)
	4日	HL部門オリエンテーション(9名) 情報整理プロジェクト(5名) HL部門オリエンテーション(2名)
	9日	東京都電話相談連絡会(3名) 新人研修打合せ(2名)
	11日	世話人会(5名) スタッフミーティング(11名)
	12日	HL部門別研修[第1日](11名)
	15日	新人研修打合せ(2名)
	18日	HL部門別研修[第2日](17名)
	23日	学会発表の打合せ(3名)
	24日より	モニタリング・実地研修開始 情報整理プロジェクト(5名)
	25日	学会発表のグループインタビュー(7名)
11月	1日	情報整理プロジェクト(4名)
	6日	東京都エイズボランティア講習会 「ソーシャルワーク」(7名)
	8日	エイズ学会発表打合せ(2名)
	12日	エイズ学会発表打合せ(2名)

	13日	東京都電話相談連絡会(2名)
	15日	世話人会(7名) スタッフミーティング(19名)
	21日	フォローミーティング(3名)
	28日	日本エイズ学会演題発表(2題)
12月	11日	東京都電話相談連絡会(1名)
	23日	スタッフミーティング(忘年会)(21名)
	27日	電話相談年納め 情報整理プロジェクト(5名)

電話相談は地道な活動です。スタッフひとりひとりの丁寧な対応の積み重ねで成り立っています。なかなかその苦勞が報われることはないのですが、今年度はエイズ学会で演題を発表することができました。3年間の日々の活動をまとめたのですが、少しでもその思いを発表することができて良かったと思います。相談最終日にプロジェクトチームで、片付けをしました。膨大な情報も整理されて、使いやすくなりました。スタッフの力が頼もしい3ヶ月でした。

(報告：佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

第1木曜 11:00- (奇数月は第1土曜日)
第3木曜 18:30-

10/1	中止	10/15	4人
11/7	3人	11/19	5人
12/3	中止	12/17	4人

※ 個別のミーティング(10月～12月) 5件

利用者数

13カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の14名の方に21名のバディスタッフを派遣

活動内容(2009年12月末現在)

派遣継続中	17件
在宅訪問	10件
病室訪問	1件
派遣休止	4件
検討中	2件

10月～12月中の動き

- ・新規派遣 1件
(入院中の支援、話し相手や買物等の活動)
- ・派遣調整 6件
- ・派遣終了 4件
(ニーズの消失 3件、クライアントの死 1件)

今後のミーティングの日程

午前ミーティング 11:00-13:00

2/4 (木) 3/6 (土) 4/1 (木)

午後ミーティング 18:30-20:30

2/18 (木) 3/18 (木) 4/15 (木)

バディの現場から

4件の活動が終了しました。うち3件は、本人の転居や退院によりニーズが消失し活動が終了しました。残り1件はクライアントが事故で亡くなり活動が終了しました。長期入院の方、身体に障がいのある方、経済的な問題を持つ方など、難しいケースもありました。活動いただいた7名のバディの方、活動いただきありがとうございました。お疲れさまでした。

(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
10月	26日	236名	(10名)	(18名)
11月	23日	192名	(9名)	(6名)
12月	22日	199名	(5名)	(16名)

(*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

10月：4回 63名

11月：4回 73名

12月：3回 49名

ピア・グループ・ミーティング (PGM)

・新陽性者PGM第49期 (参加者7名)
10/22 (修了)

・新陽性者PGM第50期 (参加者6名)
10/3 10/17 10/31 11/21 (修了)

・新陽性者PGM第51期 (参加者6名)
12/3 12/17

・陰性パートナー・ミーティング
11/14 (3名)

・ミドル・ミーティング
10/10 (11名) 11/14 (13名) 12/12 (11名)

・もめんの会 (HIV/AIDS を支える母親の会)
11/12 (6名)

学習会/イベント

・ストレスとうまくつきあうためのワーク第10期
10/19 (12名) 11/16 (11名) 12/7 (10名)

・ネスト年末パーティ
12/19 (参加者33名)

ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
10/29 (5名、6名) 12/2 (4名、7名)

・web NEST運営委員会
10/23 (3名、2名) 11/20 (3名、2名)
12/11 (3名、2名)

・ネスト世話人会
10/15 (1名、5名)

ネスト・ニュースレター

10/8 10月号発行

11/20 11月号発行

12/14 12月号発行

12月1日に web NEST が10周年を迎えました。多くの陽性者とその周囲の人たちの参加・協力のおかげで充実したサイトに成長しました。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。そしてこれからもどうぞよろしくお願いいたします。(詳細p.1)

(報告：はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

10月 20件 (1日平均4.00件)

11月 11件 (1日平均2.75件)

12月 8件 (1日平均2.00件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

10月 0件

11月 1件

12月 0件

セックスについて考えるイベント「アノコト」

11月14日(土)に、新宿二丁目コミュニティーセンターaktaにて、セックスについて考えるイベント「アノコト」を開催しました。

進行役は以前はVOICEでもお世話になったベーすけさんに、また「エイズ予防のための戦略研究」から調査に基づく情報提供を岩橋さんをお願いしました。さらに、自分自身のセックス観などについて、外部の方1名スタッフ1名がスピーカーとなり、「パートナーとのセックス、一夜限りの相手とのセックス」といったセックスの相手が違うとセックスそのものは変わるのか、という点を核に話してもらいました。

当日は参加者は十人余りと課題を残しましたが、出演者だけではなく来場者からも「なぜ生でしたがるのかわからない」といった直球な指摘も出て、他の人のセーフーセックスについての考え方に触れることができる機会となりました。

準備不足など多々あり反省も多いイベントでしたが、次回以降に活かしていければと思います。

第23回日本エイズ学会の一般演題発表

Gフレの電話相談について、名古屋で開催された第23

回日本エイズ学会の2日目、11月27日（金）に一般演題「MSM2」の枠で発表を行いました。

「ぶれいす東京ゲイ向けHIV/AIDS電話相談の相談傾向」と題し、電話相談の件数や内容だけでなく、相談員の想いなどについても触れた発表となりました。様々なシンポジウム等とも重なる時間帯であったにも関わらず、多くの方が発表を聞いてくださいました。

学会には発表を担当したヤマコさん以外にもGフレのメンバーも数名が参加し、各地のゲイコミュニティの取り組みなどを学ぶ機会となりました。（詳しくは5ページ）

愛知県エイズキャンペーン2009

11月28日（土）には、2008年に引き続き名古屋市の金山総合駅コンコースにて、Gフレが制作したパネルが展示されました。今年は2008年に開催した展示イベント「episode from OUR DAYS」で制作した、ユウジさんの10篇の手記パネルとイメージフォトの展示となりました。



名古屋市の金山総合駅コンコース

学会の最終日と時間帯が重なってしまい、現地で実際に見ることは叶いませんでしたが、愛知県の担当の方より、多くの方が足を止めて手記を読んでくださったとの報告をいただきました（展示風景の画像も担当の方よりご提供いただきました）。

ご協力くださった皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

（報告：sakura）

HIV陽性者への相談サービス

相談実績2009年10～12月

2009年	10月	11月	12月
電話による相談	136	116	87
対面による相談	59	51	44
E-mailによる相談等	96	89	97
うち新規相談	32	28	24

※メール新規は含まず

10～12月の新規相談者の属性（N=84）

陽性者：	54人（男性：50	女性：4）
パートナー（元）：	15人（男性：14	女性：1）
家族：	5人（男性：	女性：5）
	※判定保留家族含む	
その他：	7人（男性：6	女性：1）
	※判定保留を含む	
専門家：	3人（男性：2	女性：1）
	※非拠点病院MSW他	

10～12月新規相談者の情報源（N=84）

WEB（携帯含）	43件	カウンセラー	2件
陽性者	8件	MSW	1件
電話相談	6件	パートナー	1件
病院／クリニック	4件	家族	1件
保健所／検査所	3件	行政	1件
コミュニティセンター等／NPO	2件	友達	1件
パンフレット等（戦略研究冊子等）	2件	ゲイバー	1件
看護師	2件	不明	4件
以前から知っていた	2件		

10～12月新規相談の内容（N=84）

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・数ヶ月前に感染が判明。PGMに参加したい。
- ・ゲイバーのママの紹介で電話。ミドルミーティングに参加希望。
- ・初めての連絡。対面相談を申し込みたい。
- ・カフェネストにいつてみたい。
- ・SNSでミドルミーティングを知り参加希望。
- ・ネストのことをmobile NESTでみて連絡しました。
- ・カミングアウトされたので、自分も知らせた。その人と一緒にネストに来てみた。
- ・友達の感染者にさそわれ、交流を増やしたいと思って来てみた。
- ・年末パーティに参加したくて連絡。SNSが情報源。
- ・NAミーティングで知って来ました。

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・感染を知ってから、数年がたち、ボランティアがしたいと思うようになった
- ・aktaで聞いて連絡。入院中なので、外出ができない。依頼したいことがある。
- ・最近告知を受けた。医学的なことだけでなく、セックスや出会いのことも話したい。

【検査や告知】

- ・泌尿器科のオペ前検診でわかった。
- ・クリニック検査で陽性。もらった資料からネットをたどって電話した。（近畿）
- ・今日、告知を受けたばかり。1人で考えるのがつらくて連絡した。
- ・体調不良があり、クリニックで陽性と判明した。そこから、土日に通院できる拠点病院に転院した。
- ・保健所の検査で陽性だった。病院で確認検査を受けるようにと言われた。
- ・昨日、検査結果が陽性だった。確認検査中。セーフにやってきたのに。
- ・数日前に、検査機関で陽性とわかる。フリーダイヤルだからかけた。（近畿）
- ・保健所で陽性とわかったのだが、通院する前に病院の選択を迷っている。（近畿）
- ・体調不良から近医にいき、検査をすすめられ陽性と判る。発症していた。

- ・大学病院の肛門科のオペ前検査で陽性が判明。他の患者は少ない様子。
- ・術前の検査で陽性とでた女性。自分は妊婦という年齢ではないのだが。
- ・年末のHIV検査で、「検査結果は陽性ですが、正式なものではなく確定検査の結果は業者に出すので、年始にもう一度きてください」とフォローが無く、webで情報を探して電話した。
- ・体調不良で近医にいったが原因がわからず。拠点病院でHIV検査をうけ陽性と判明。オーラルセックスしかしていないので納得がいかない。
- ・検査キットで陽性だった。どうしたらいいだろうか。妻がいて、セックスもしている。(北海道/東北)
- ・母親。娘がクリニックの検査で陽性だった。現在、確認検査を受けている。陰性とでる割合を教えてください。家族中がパニックになっている。

【医療など】

- ・HIV+とわかって数年。服薬開始時期だが、決心がつかない。(中国/四国)
- ・悪性リンパ腫といわれた。病院のことを相談したい。
- ・昨年、アメーバ赤痢がきっかけで感染が判明。医療機関との付き合い方で相談したい。
- ・数週間前に感染がわかった。医師からは、服薬開始時にはかならず入院。家族をつれて来てといわれているがどうなのだろう。(北海道/東北)

【人間関係】

- ・つきあい始めた人がいて、気になって検査をうけたら、迅速で陽性だった。
- ・まだ、Hはないけども、つきあおうとしている相手からカミングアウトされた。
- ・妻が陽性とわかった。自分は陰性だった。(東海)
- ・昨日、長く付きあっているパートナーから感染を知らされた。理解し、納得したいが…。
- ・女性。パートナーの感染がわかって数年たつ。対面相談を受けたい。
- ・パートナーからエイズを発症と連絡があり、ネットで調べたら余命が2-3年とあった。すごく混乱。
- ・最近彼の感染がわかった。約10年のつきあい。このまま付き合えるかが不安。
- ・女性陽性者。子供がいるので、印刷物ももちかえらないようにしている。
- ・パートナーの感染が判明。二人とも陰性だと確認していたので、安心して生でやっていたのに。
- ・パートナーが陽性者だった。フェラをさせてくれないので、聞いたらそうだとわかった。
- ・自分は陽性者で陰性パートナーがいる。セックスの際にゴムが外れ、すぐに止めた。その際に相手から意識が低いと指摘され、色々と考えている。
- ・母親。息子が倒れて入院したら、カリニ肺炎だった。自分には限界があるので、本人の役立ところにつなげたい。
- ・知人の家にいき、ダニにかまれた。知人からそれで自

分に感染しないかと聞かれた。

- ・感染している家族の尿がついた便器を素手で触ったがどうなのか。
- ・家族の感染がわかった。歯ブラシをまちがったら、同じペットにかまれたらどうなるのか。
- ・彼氏の部屋で、偶然に薬と手帳をみつけた。本人からは何もいわれていない。
- ・春に検査で陽性と判明。思いあたる相手は元彼。
- ・別の病気で入院したらそこで感染がわかった。同居パートナーへ告知すべきだろうか？
- ・ゲイだが結婚を考えている。人工授精で子づくりもしている。自発検査で陽性だった。
- ・既婚者。妻とは子づくり目的で体内射精を伴う行為をしていた。感染経路は、数ヶ月前に別の女性とセックスしたのが思いあたる。
- ・パートナーの様子がおかしいと思っていた。薬の副作用もあったのかもしれない。
- ・姉から。前からゲイだと聞いていた弟の感染がわかった。親に言うかどうかなど悩むところ。
- ・術前検査で感染がわかった。福祉系の仕事なので窓口知りあいもいるので不安。

【心理的なこと】

- ・パートナーが、最近、薬物をつかっていることがわかり混乱。
- ・以前の体調不良時に検査をすすめられたが怖くて受けられずにいたら、発症してしまった。
- ・発症で感染が判った女性。海外でレイプされたことが、感染の原因だと思う。
- ・数人に感染を知らせていたが、親しい人が異動になってしまった。気持ちが落ち込んだ。
- ・体調不良で検査を受けた。去年、友達二人が発症で亡くなった。精神科にも受診中。
- ・告知前までは、やる気があったのに、今は不安ばかり。他の相談で就職しても、退職者が多いと言われショックだった。

【生活や福祉】

- ・仕事で駐在する国のビザ取得に陰性証明が必要で検査、届いた紙に陽性との文字があった。
- ・パートナーの陽性が判明。これから専門病院に行く。いくらくらいお金がかかるのか。
- ・生命保険のことを知りたい。契約が更新になるので、内容を見直し中。
- ・障害者控除について知りたい。家族同居で未通知。控除したらどうなるのだろうか。
- ・急性感染で感染がわかる。服薬開始して1ヶ月ちょっと。医療費のことを相談したい。(近畿)
- ・告知から数日。健康保険を利用しているのだが、会社にばれないだろうか。(九州/沖縄)
- ・住宅購入を考えている。団体信用保険について聞きたい。健康保険の写しはどういう意味なのだろう。

【専門家】

- ・生活保護担当ワーカーから、オーバーステイの住民に関する相談。
- ・MSW から。近県在住の感染者の方で不安が強い人がいるので、使えるリソースがないか。
- ・都内非拠点病院MSW から。拠点から回復期の患者をリハビリ目的で受け入れたが、転院先がない。

【就労】

- ・障害者枠でかなりの数に応募しているが、結果につながらず、精神的に消耗。
- ・海外で陽性と判明し帰国した女性。派遣会社に感染を知らせ就職活動中。今のところ苦戦している。
- ・職場で感染が判明し、産業医から告知を受けた。これから医療機関を決める段階。
- ・最近感染を知ったのだが、情報を増やしたい。特に、就労について。

(報告：牧原/福原/生島)

研究部門

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

「地域における HIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表：生島 嗣)

- ・名古屋での日本エイズ学会学術集会中に班会議を行い(11/27)、また、サテライトシンポジウムとして研究成果等普及啓発事業「HIV／エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会」を開催し、134名の方に来場いただきました(11/26)。
- ・冊子「HIV／エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会」および「地域の相談機関における HIV陽性者への相談対応に関する調査」を発行しました。
- ・「地域における HIV陽性者等支援のためのウェブサイト」(<http://www.chiiki-shien.jp/>)にて上記冊子2点のデジタル版を新規公開、広報用の Webカードも配布中です。
- ・東京障害者職業センターの職員 44 名の方を対象に、HIV陽性者やその周囲の人への対応の準備性向上のための研修会を実施しました(12/1・2・9・16)。

(報告：大槻)

エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー：市川誠一)

MSM首都圏グループ

- ・エイズ発症予防を呼びかける「できる！」キャンペー

ンを12月、展開しました。手記を掲載した卓上カレンダー、ゲイ雑誌で活躍するイラストレーターによるカードをクラブイベント、サークルで配布しています。また、これらの内容はweb上でみることができます(詳しくは、<http://www.hiv-map.net/>)。



メッセージとカレンダーと写真をそれぞれめくることができる

- ・12月9日に、台東区・北区のHIV検査に関わる保健師を対象とした研修会を実施しました(12名参加)。これにより、東京の北・東エリアの検査所との協力関係が広がっています。
- ・バーのマスター・スタッフ対象の情報誌TOMARI-GI 5号を発行しました。10月には読者イベントを新橋、上野・浅草、新宿、野毛で実施し、08年度のバー・アンケートの結果をご紹介しました。
- ・2009年度の携帯電話アンケートが11月末に終了しました。サークル(文化系、スポーツ系)、Living Together計画関係者を対象に463件の回答をいただいています。集計速報について、web上でお知らせしています(<http://www.real-it.net/survey/>)。

(報告：岩橋)

MSM京阪神グループ

「陽性者サポートプロジェクト関西」

- ・陽性者サポートライン関西：10～12月の陽性者向けの電話相談の実績は13件(うち2件は対象外)だった。
- ・ひよっこクラブ：ぷれいす東京も立ち上げを手伝っている、感染がわかったばかりの人向けのグループミーティングの第2期参加者を募集中。病院の紹介ルート、直接申込の2ルートで募集している。



サポートプロジェクト関西のフライヤー

- ・地域カンファレンス報告：地域支援者のネットワークづくりを目指した企画の第2回。11月3日に「HIV陽性者支援における保健師の役割」をテーマに、大木幸子(杏林大学)さんをゲストに開催した。参加者は15人。保健所保健師のインタビュー調査の結果報告後、参加者同士で意見交換をした。

(報告：生島)

編集後記

- ・1年通った料理教室、ただいま3月の卒業制作にむけてグループの皆さんとレシピや盛りつけ方を話あって楽しい日々です。多分私はカットと片付け担当だと思います…。(こんどう)
- ・ぷれいす東京恒例のお花見の日時が、3月28日(日)に決定しました。皆様、ぜひ予定にいられてください。さあ、今年のサクラの開花はどうでしょう。(いくしま)
- ・「季節限定」天ぷら蕎麦を食べました。タラの芽、ふきのとう、菜の花。まだダウンも暖房も手放せないのに、先んじて春が春を知らせてくれる。ちょっぴり気持ちがほぐれたりするものですね。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス 204
TEL：03-3361-8964 (月～金 12:00～19:00)

FAX：03-3361-8835

E-mail：info@ptokyo.com

ぷれいす東京 HP：<http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS：<http://gf.ptokyo.com/>

web NEST：<http://web-nest.ptokyo.com/>